



令和6年 8月20日

第4号

酒田農業技術普及課
TEL 22-6521

収量・品質向上のために！ 適期防除、大型雑草の抜き取り徹底！

I 大雨被害があったものの、生育量は平年並

7月25日の記録的な大雨により、一部の生育量が小さかった圃場で、冠水した所では、枯死した株が見られます。一方、圃場表面の停滞水を短時間で排水した圃場では、生育量は平年並に確保され、分枝数、莢付きも平年並と見込まれます。

また、右表のとおり「エンレイ」「里のほほえみ」の開花期は平年並となりました。

品 種	開花期（平年差）
エンレイ	7月27日（±0日）
里のほほえみ	7月29日（±0日）

II 紫斑病・マメシクイガの防除は適期に確実に！

紫斑病と最重要害虫のマメシクイガは開花25日後頃に同時防除を実施します。この時期がマメシクイガの産卵最盛期です。間もなく防除適期となります。エンレイで8/21頃から、里のほほえみで8/23頃から、防除を実施してください。

さらに、マメシクイガはこの10日後、平年の孵化期から若齢幼虫期にあたる時期に2回目の防除を行います。いずれも、遅れないように、莢にも確実に薬剤が掛かるよう防除を実施してください。

※ マメシクイガの成虫の動きは活発でなく、あまり遠方には移動しません。そのため、連作圃場に土着しやすい特徴があります。

注）水稻の収穫時期が近付いている時期の薬剤散布です。薬剤が水稻や他の作物に飛散しないよう、風向きに注意して慎重に防除しましょう。

III ダイズシストセンチュウに注意！

圃場全体は正常に生育しているのに、圃場の一部分で草丈が短く葉が黄化している場合、ダイズシストセンチュウの被害が疑われます。このような圃場がある場合は、被害の拡散を防ぐため、その圃場の全ての作業（今後の雑草抜き取り、収穫作業等）を最後に回しましょう。

被害のみられる圃場での次年度以降の作付けについては、JAまたは当課にご相談ください。

IV 大型雑草の抜き取りと畦間雑草の除草徹底!

大型雑草や群生する畦間雑草は汚損粒の発生につながり、コンバインを詰まらせる等のトラブルを誘発しかねません。また、種子がこぼれると来年さらに発生が多くなります。種子ができる前に抜き取るなど、収穫前に雑草対策を徹底しましょう。

群生する畦間雑草に対して除草剤を使用する場合、散布時期は大豆の落葉終期とし、収穫前日数などに注意するなど、使用方法を守って散布してください。

【抜き取りが必要な大型雑草の例】



V 農作業事故防止啓発運動実施中!

【事故を防止するために】

- ① 危険を予知しよう
- ② 携帯電話を持ち歩こう
- ③ 正しい服装で作業しよう
- ④ 体調に気を付けよう
- ⑤ 農業機械の使用方法を確認しよう

どんなに近くでも携帯し、ポケットから飛び出さないような工夫をする。

袖口、ズボンの裾、首に巻いたタオルなどに気を付ける。

無理のない計画で作業し、気分が悪いと感じたら周囲に知らせる。

暑い日はできるだけ早朝・夕方に作業するなど、
熱中症予防を心がけましょう!